

東京支部の4年半

東京支部 遠間洋平

「東京地方でももっと活動できないだろうか」との願望から、2004年4月に東京近辺の会員数人で、CASA東京支部は発足しました。発足後しばらくは、大阪本部の企画した東京地方でのセミナーやシンポジウムの手伝いが主な仕事でした。その後、支部としての活動を模索するなかで、「とにかく定期的集まって顔を合わせることが大切」との認識で、2005年4月に定例会がスタートしました。

定例会は月一回、地球温暖化問題をメインテーマとし、勉強会、調査発表、情報提供、イベント企画、他団体イベントへの参加、市民啓発活動、独自調査・研究などについて、できることをひとつずつ実行していこうということになりました。

以下は定例会開始以降のこれまでの主な活動内容です。

○独自調査

2006年に「首都圏自治体の温暖化防止対策の実態調査」を一年ほどかけて行いました。

東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県各都県の温暖化対策はどうなっているかをメンバーで分担して調査、その結果を、CASAレター、ホームページ、学習会の発表などを通して報告しました。

○イベント

2005年6月 文京区環境月間事業に出展「STOP THE温暖化～国際社会の取り組み～」

「CO₂大幅増加！どうする？日本～日本の対策と問題点～」

2006年11月 茨城県古河市 シンポジウム「地球温暖化を考えよう」企画・開催

2007年7月 東京都港区 東京支部学習会で「首都圏自治体の温暖化防止対策調査結果」を報告

2008年6月 埼玉県古河市 「環境展2008」に

参加。また同展で「セミナー『地球温暖化を考えよう』」を企画・開催

○定例会ではテーマを決めて勉強会や調査発表、情報交換や、会員からのプレゼンをしてもらったりしています。これまで行った学習会などのテーマ(抜粋)は以下のとおりです。

- ・「京都議定書目標達成計画」
- ・「RPS法」
- ・温暖化とメタンハイドレート放出
- ・IPCC第4次評価報告の各部会報告
- ・CASAの「スターンレビューを読む」のDVD
- ・地球温暖化懐疑論
- ・COP13(バリ会議)の結果について
- ・持続可能だった江戸時代とビジネス
- ・2050年日本低炭素社会シナリオ(国環研)
- ・「福田ビジョン」
- ・洞爺湖サミットの結果
- ・国内排出量取引
- ・ドイツの環境政策

CASA会員として私達は何をしたらいいか、これはいつも問われているテーマです。正しい情報を入手して、それを市民に知らせることが私たちの役割だと思います。市民啓発することにより、世論が少しでも盛り上がり、日本の温暖化対策が前進することを願って、今後も地道な活動を続けたいと思います。



東京支部の勉強会